

初期外邦図の作製過程と特色

100043 Mapping of East Asian Countries by Japanese Army Officers during 1880s

小林 茂(大阪大学)・山近 久美子(防衛大学)

渡辺 理絵(日本学術振興会特別研究員(PD)筑波大学)

KOBAYASHI Shigeru (Osaka University), YAMACHIKA Kumiko (National Defense Academy) and

WATANABE Rie (JSPS Fellow (PD) Tsukuba University)

キーワード：外邦図，日本軍将校，測量，中国，朝鮮半島

Keywords：Japanese military and colonial maps of Asia-Pacific Areas, Japanese army officers, Surveying, China, Korean Peninsula

2008年3月、ワシントンのアメリカ議会図書館で外邦図の調査をおこなったところ、1880年代に中国大陸・朝鮮半島・台湾で、日本軍将校がおこなった簡易測量による手書き原図を発見した。まだ調査は完了していないが、彼らの調査旅行と測量、手書き原図を集成した地図作製、さらにその利用について一定の成果がえられたので報告する。この測量と地図作製は、日清戦争以後の臨時測図部による外邦図作製の前段階と位置付けられるが、記録がすくなく、手書き原図のさらなる調査は、その全貌の解明に大きな意義をもつと予想される。

1. 地図の基本的特色と作製者

上記手書き原図は、アメリカ議会図書館マディソン館の地図室、Vault Map Collection に架蔵されている。すでに日本国際地図学会シンポジウム「外邦図の集成と多面的活用」(2008年8月、国土地理院)で発表したように(山近・渡辺 2008)、総点数は150以上に達すると考えられ、一部はまだ目録が整備されていない。サイズは多彩であるが、縦横数十センチ～150センチ程度である。地図にはタイトルや陸軍将校の氏名、位階、年代などを示す。なかには年代を示さないものもあるが、判明しているものでは、1882(明治15)年～1888(明治21)年である。多くはルートマップで、通過したルートに沿って左右の地物を記入し、縮尺はほとんどの場合10万分の1となっている。その他は、都市や地方中心地をえがき、縮尺は4千分の1～2万分の1である。

陸軍将校の位階は、記載があるものでは中尉・大尉がふつうで、兵種は歩兵・砲兵・工兵とさまざまである。倉辻靖二郎、酒匂景信といった将校の氏名から、村上(1994)や

南(1996)が検討した、中国大陸・朝鮮半島で活動した「軍事密偵」であることがあきらかである。このうちとくに酒匂は、広開土王碑の拓本を最初に日本にもたらした人物として知られ、古代史研究者からもその活動が注目されている(佐伯 2005)。

2. 日本軍将校の組織と活動

日本軍将校は1873(明治6年)から中国大陸に派遣されていたが、上記手書き原図を作成した将校の派遣は1879年に開始され、初期は12名に達した。1883年には増員されて16名となったが、1886年には9名に減員され、1888年以降は新規派遣が中止された(村上 1994)。将校の任期は3年で、おもに海岸部の諸都市に分散して駐留し、数ヶ月の調査旅行が義務づけられていた。

地図作製のための測量はこの調査旅行に際しおこなわれたもので、その記載内容から、1885(明治18)年頃使用されていた『路上測図教程』にみられる、羅盤を固定した携帯図板を水平にもって、歩測によって距離をはかりながら作図していく方法によったと考えられる。1886年に倉辻靖二郎が提出した測量・作図器具紛失届(アジア歴史資料センター、レファレンスコード: C07081421600)にあらわれる「羊角製半円規」(分度器)、「■止米突尺角製」(10センチ定規)、「換穂付コンパス」(『路上測図教程』の「発條鉗子羅盤」と考えられる)、「鉛筆■」(以上は「懐中図引器」として一括)、「復デシメートル」(double-decimètre: 20センチ定規)、および「ブーソルベルニエ」(boussole vernier: 遊標つき羅盤)は、これを裏付ける。なお、この時期の測量器具には、フランス語が使われている点も注目される。

3. 測量成果の応用

以上のような測量の成果は、蓄積が進み、1883年12月

には、それを「輯合編製」する必要が感じられるにいたった(桂太郎管製西局長より大山巖本参謀部長への意見、広瀬編 2001, 1711)。これに応じて作製されたのが、「朝鮮二十万分一図」および「清国二十万分一図」、さらにのちには「東亜二十万分一図」と一括してよばれるようになった地図であったと考えられる。まだ十分に調査が進んでいないが、これらには「明治十七年創製」と記入されている(忠敬堂 1984, 22-24)。またこの成果は、小縮尺の百万分の1図にも反映されることになった。

今まで調査したところでは、これらの地図の製版・印刷は1894(明治27年)に集中的におこなわれた模様である。これは日清戦争の開始に合わせたものと考えられる。

4. 従来の研究における初期外邦図の位置付け

以上のように集成され、製版・印刷された、アメリカ議会図書館蔵の手書き原図については、高木菊三郎の記述がもつともまとまっており、以下これを検討したい。

高木は『外邦兵要地図整備誌』(1941年)の第6章で、外邦図作製の歴史を第1期：準備(編纂)時代、第2期：実測(整備)時代、第3期：外国製地図入手(整備)時代と大きく3期に区分した。この場合、第1期と第2期のあいだの画期を明確に示していないが、日清戦争を契機とする第一次臨時測図部(1904年12月編成)による外邦図作製以降は明確に第2期に属すと考えていたとみられる。これに対し、本格的なものではなかったにせよ、実測による手書き原図をもとにした外邦図作製が、第1期に位置づけられているのは、この時期の地図作製に関する、つぎのような理解をもとにしている。

……明治十年西南役時内地ニ於テ始メテ歐式新制ニ依ル兵要図ノ測量ヲ実施シ後年ニ至リ若干我軍部旅行者ニ依ル支那内地旅行図ノ作製ヲ見其他信憑シ得ヘキ資料ノ蒐集等ニ依リ之レカ編纂ニ係ル「東亜二十万分一図」等ヲ大成シ……(高木著・藤原編 1992, 318)

ここでは、「支那内地旅行図」を編集したものとして、上記「朝鮮二十万分一図」などが位置づけられるわけである。この観点は、高木(1961, 9-13, 25)にうけつがれている。

この見解は、「旅行図」の作製とその編集を、別個のプロセスとして理解しようとしているが、上記のような「明治十七年創製」という認識とは、ややずれがあると考えられ、これら20万分の1図の製版や印刷の時期や過程をさらに調査すべきと考えられる。

5. 既存の外邦図コレクションにおける初期外邦図

ところで、以上のようなアメリカ議会図書館蔵手書き原図に対応する20万分の1地図は、現在まで演者らが調査してきた東北大学・京都大学総合博物館・お茶の水女子大学の外邦図コレクションには含まれていない。また外邦図の初刷りの目録である『国外地図目録』および『国外地図一覧図』にも見あたらない。これらの図は、陸地測量部の発足(1888年)以前に作製が開始され、日清・日露戦争後に順次発行されなくなっていったことがその背景として考えられる。第一次および第二次臨時測図部による地図作製の陰にかくれてしまい、高木菊三郎ですらその作製を追跡できなかったと考えられるのである。

今後、手書き原図の調査を継続するとともに、その編集による印刷図を探索し、両者の全容の把握につとめたい。高木の見解に対し、これらの図を最初の本格的な外邦図として位置づけられる可能性があるだけでなく、海外での秘密測量の原図というきわめて希な資料とその印刷図の関係が把握できる可能性も大きく、外邦図の作製過程を本格的に検討できるからである。『東京地学協会報告』にのこされている海外で活動した陸軍将校の手記(海津 1880, 1884a,b, 梶山 1883)は、それに際して貴重な手がかりを提供すると考えられる。

文献

- 海津三雄 1880. 元山津之記. 東京地学協会報告 1(9): 1-8.
海津三雄 1884a. 朝鮮北部内地の実況(義州行記). 東京地学協会報告 6(2): 3-41.
海津三雄 1884b. 朝鮮北部内地の実況(慶興紀行). 東京地学協会報告 6(3): 11-29.
梶山鼎介 1883. 鴨緑江紀行. 東京地学協会報告 5(1): 3-45.
佐伯有清 2005. 広開土王碑文将来者の伝記拾遺: 酒匂景信と乃木希典の日記. 佐伯編『日本古代史研究と史料』青史出版, 3-30.
高木菊三郎 1961. 『明治以後日本が作った東亜地図の科学的妥当性』高木菊三郎.
高木菊三郎著・藤原彰編 1992. 『外邦兵要地図整備誌』不二出版.
忠敬堂 1984 『参謀本部陸地測量部外邦図綜合目録』(忠敬堂古地図目録 22号)忠敬堂.
広瀬順皓監修・編集 2001. 『参謀本部歴史草案』ゆまに書房.
南榮佑 1996. 『舊韓末韓半島地形圖』解題. 成地文化社.
村上勝彦 1994. 解説 隣邦軍事密偵と兵要地誌. 陸軍参謀本部編『朝鮮地誌略 1』竜溪書舎, 3-41.
山近久美子・渡辺理絵 2008. アメリカ議会図書館所蔵の日本軍将校による1880年代の外邦測量原図. 『日本国際地図学会 平成20年度定期大会発表論文・資料集』10-13.